

第3回

水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会 環境部会

日時：平成30年 9月28日（金）午後2時から

場所：熊本市動植物園 緑の相談所 2階会議室

次 第

1. 開会

2. 議題

（1）前回会議の振り返り・今回の検討事項

資料1、2

（2）水前寺江津湖公園の課題について

- ・中学生の意見
- ・協議会委員の意見
- ・アクティビティ・マネジメント部会の意見
- ・マーケットサウンディングについて

資料3

資料4

資料5

資料6

（3）計画の基本的考え方について

資料7

（4）今後のスケジュールについて

資料8

（5）その他

3. 閉会

（配布資料）

- ・ 配席図
- ・ 委員名簿
- ・ 資料1 前回会議の振り返り
- ・ 資料2 今回の検討事項
- ・ 資料3 中学生の意見
- ・ 資料4 協議会委員の意見
- ・ 資料5 アクティビティ・マネジメント部会の意見
- ・ 資料6 マーケットサウンディングについて
- ・ 資料7 計画の基本的考え方
- ・ 資料8 今後のスケジュール
- ・ 参考資料 イベントガイドラインの作成について
- ・ 参考資料 エリアマネジメントの取組みについて

【協議会・部会の要旨】

第2回 アクティビティ・マネジメント部会 (H30.9.25)

- ・江津湖の生き物を対象にした水族館を整備して、子ども達が江津湖を知るきっかけをつくってはどうか。
- ・江津湖を利用したスポーツイベント（マラソンや水上スポーツなど）や健康に関するイベントをしてはどうか。既存イベントのいくつかでも江津湖を会場にしたりすることもいいのではないか。例えば、熊本城マラソンコースの一部にしてみてもどうか。
- ・ネーミングライツを行って、トイレをきれい（和式→洋式）に保つことがあってもいいと思う。
- ・江津湖で気軽に行うことができる運動をリスト化した“アクティビティリスト”のようなものを作成すると、江津湖の魅力発信につながるのではないかな。
- ・適正な管理を行うために、施設の集約や減築を考える必要があるのではないかな。
- ・“水”をアピール・発信する上では、マーケットによるブランド化の視点が必要である。
- ・目指すべき方向性については、誰がどのような体制で行っていくのか、今後明確にしていける必要がある。
- ・プレイヤーが必要となる。例えば大学で会社をつくって、そこから民間に営業をかけていくような仕組み。

第2回 環境部会 (H30.8.24)

- ・水環境の保全については、現在の取り組みの継続や発信をすることが重要である。
- ・江津湖の環境に関する調査が不足しているので、過年度のデータの集積・整理をした上で、必要な調査を行う必要がある。
- ・外来生物については、江津湖における調査結果をもとに、現況の把握や効果の検証を行わなければ駆除は難しいと思う。
- ・江津湖の歴史・文化と自然環境を融合させるようなものがあると、より魅力の発信につながると思う。
- ・江津湖に関する情報の集積や発信の場として、ビジターセンター（仮）の設置が望ましい。
- ・江津湖は、自然環境と人間活動が共存・共生している場所で、完全にゾーン分けすることは難しいので、環境に配慮すべきゾーンとして情報を提供することも大事。

第1回 アクティビティ・マネジメント部会 (H30.8.6)

- ・アクティビティに関すること環境保全優先に考えていく必要がある。
- ・「今のままが一番よい」という意見も大事にする必要がある。
- ・余裕をもって維持できるような仕組みづくり（持続可能な維持管理システム）が求められている。
- ・江津湖に関わる方々の組織化、人材育成によって、大きな力が生まれるのではないかな。
- ・マナー問題（飛び込み等）への対応が必要である。
- ・看板がない公園を目指すとか、今の技術等で公園を面白くしていく考え方もある。
- ・わかりやすい言葉で、魅力と改善するところを整理するなど、整理の仕方の工夫が必要で

ある。

第1回 環境部会 (H30.7.23)

- ・ まずは長期的な目標を固めて共有すべき。その上で、短期・中期の方策を考える必要がある。
- ・ 環境と文化は一つの塊。環境と文化のバランスを図っていく必要がある。
- ・ 江津湖の環境に関する基本情報が足りない。江津湖を保全する上で必要なものは今回を機に調査する必要がある。
- ・ 人間活動により自然が追いやられている。例えば、人間活動を受けやすいカヤネズミの活動範囲が狭まっているので、ヨシを復活させたり、自然ゾーンと人間ゾーンを分けたりして、自然と人間の共存を図るべき。
- ・ 江津湖で活動する誰もが必要とする“水”を大事にすべき。
- ・ 緑化フェアでは、各団体において自然観察会を実施し、熊本の自然を知ってもらう契機にするといい。

第1回 協議会 (H30.7.4)

- ・ 外来種において、すでに増えたものの駆除も大切だが、今後新たに出さない、まだ話題になっていない生き物も逃がさないという部分がまだ弱い。
- ・ 江津湖に本来いる生き物を大事にし、その存在を多くの市民に知ってほしい。
- ・ 動物たちには必要ないものであるため、護岸工事や夜間照明を行うには、生物たちのことをよく理解した上で行うべきである。
- ・ シードバンク（埋土種子）を活用した河岸植生の復元も必要である。そういったものを発掘して、水辺の植物の再生ということを行うと、素晴らしいものになるのではないか。
- ・ レッドデータブックの該当種が江津湖には生息しているので、範囲を広げると、子ども達の環境学習の材料にもなるし、環境を守っているという大きなメッセージにもなる。
- ・ 江津湖の主役は「水」であり、生き物だけでなく、水も共に取り戻すような取組みがさらに強まったというような動きができればよい。そのためにも上流域から下流域までのつながりは大事である。
- ・ 外来種の駆除においては多くの市民と協力し、計画的にやる必要がある。
- ・ ゴミの問題に関しては、行政だけでは難しいものがあるので、地域と協力して取組まないといけない。
- ・ 水や自然環境の視点とともに文化的な視点が必要である。
- ・ 協議会の委員と行政だけではなく、その場所をよく理解していて、定期的に清掃活動なども取組んでいる地域の方々も参画して計画は策定していくべきである。
- ・ 江津湖の魅力を全国的に発信する気運が乏しい。
- ・ 短期・中期・長期の計画に対してどういうふうに戦略的にこの会を運用していくのかを明確に示すべきである。
- ・ 自治協議会、公園愛護会、関連団体と十分に協議をして進めていくことが大事である。
- ・ Park-PFI を取り入れるにあたっては、熊本市の景観計画やその他のルールに従って、作る

という事をしっかりと位置づけることが重要である。